

2024年度 第1四半期決算

富士電機株式会社
2024年7月25日

© Fuji Electric Co., Ltd.

皆さん、こんにちは。経営企画本部の荒井です。
2024年第1四半期の実績について、対前年比で説明いたします。

1. 2024年度 第1四半期実績（対前年）	P. 3
2. 2024年度 業績予想（対4/25予想）	P. 12
3. 貸借対照表／キャッシュ・フロー計算書	P. 16
4. 補足資料	P. 19

1. 2024年度 第1四半期実績 (対前年)

売上高、営業損益、経常損益は過去最高を更新

	(単位：億円)		
	2023年度	2024年度	増減
売上高	2,341	2,364	22
営業損益 (営業利益率)	147 (6.3%)	173 (7.3%)	26 (1.0%)
経常損益	151	183	31
特別損益	46	3	-43
税金等調整前 当期純損益	197	185	-12
法人税等	63	59	-5
非支配株主に帰属する 四半期純損益	11	12	1
親会社株主に帰属する 四半期純損益	123	115	-8

(期末レート：6月末)		(単位：円)	
US\$	144.99	161.07	16.08
EURO	157.60	172.33	14.73
RMB	19.94	22.04	2.10

(平均為替レート)		(単位：円)	
US\$	137.37	155.88	18.51
EURO	149.47	167.88	18.41
RMB	19.56	21.48	1.92

(単位：億円)	
売上高増減	
海外子会社の為替換算差による増収	+55
需要減	-33
営業損益増減	
物量・生産減	-2
固定費増	-34
為替影響	+10
その他*	+52
	+26
*コストダウン、価格変動、機種構成差等	

営業外損益増減	
金融収支	(-4 8 → 4)
為替差損益	(-5 16 → 11)
その他	(14 -19 → -5)
	(+5 5 → 10)

特別損益増減	
投資有価証券売却損益	(-44 46 → 2)
その他	(+0 -0 → 0)
	(-43 46 → 3)

売上高は2,364億円で、前年同期比で22億円増加しました。ただし、この中には為替の影響でプラス55億円が含まれており、実質的には33億円のマイナスとなります。

営業損益は173億円で、前年同期比26億円増加し、損益率は7.3%で1%アップしました。営業外損益では、金融収支や為替でマイナスがありましたが、その他で14億円のプラスがあり、主な要因は前年のマレーシアにおける事業転換費用の減少です。結果、営業外損益は5億円のプラスとなり、絶対額は10億円となりました。

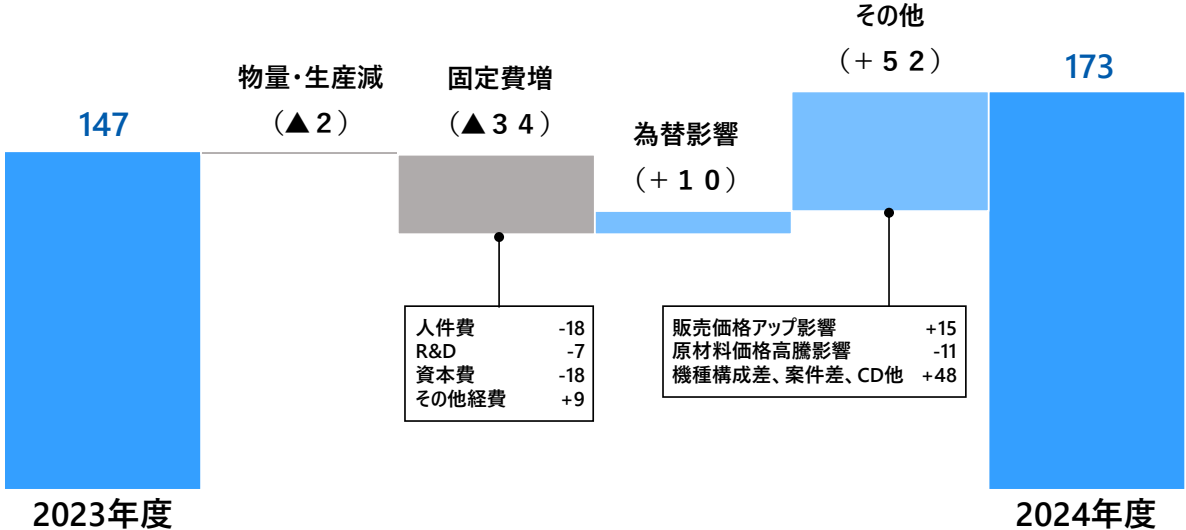
経常損益は183億円で、前年同期比31億円増加し、過去最高を更新しました。

特別損益は、前年に政策保有株式46億円を計上したことから、前年同期比43億円減の3億円となりました。

税前利益は185億円で前年同期比12億円減少し、最終的な純損益は115億円で前年同期比8億円減少しました。

固定費増や原材料価格高騰による悪化影響があるものの
機種構成差やコストダウン等により増益

（単位：億円）



前年の営業損益との比較を階段グラフで示しています。物量生産減の影響として、半導体の電装分野、店舗流通、変電事業がプラスでしたが、器具部門、施設・電源システム部門、発電プラント部門がマイナスとなり、トータルでマイナス2億円となりました。

固定費については、国内を中心に人件費が18億円増加し、半導体への積極投資により研究開発費と資本費が18億円増加しました。その他の経費は減少しましたが、ここには外注費の減少等が含まれています。

固定費増加の影響でトータルではマイナス34億円となりました。

為替影響でプラス10億円。

その他でプラス52億円の増益要因がありました。その他には、販売価格アップの影響でプラス15億円があり、原材料費高騰によるマイナス11億円を吸収しています。

機種構成や案件差の影響では、設備工事や半導体の産業向けやファクトリーオートメーションがプラス要因となったほか、半導体の良品率アップによるコストダウン効果などで48億円増加しました。合計すると52億円の増益要因があり、トータルで前年同期比26億円増となりました。

インダストリー、半導体、食品流通で増収増益

（単位：億円）

	2023年度			2024年度			増減		
	売上高	営業 損益	営業 利益率	売上高	営業 損益	営業 利益率	売上高	営業 損益	営業 利益率
エネルギー	726	50	6.9%	682	33	4.8%	-45	-17	-2.1%
インダストリー	797	0	0.0%	802	20	2.5%	5	20	2.5%
半導体	511	71	14.0%	539	77	14.3%	28	6	0.4%
食品流通	278	32	11.4%	307	52	16.9%	29	20	5.5%
その他	158	10	6.6%	138	8	5.7%	-20	-3	-0.9%
消去または 全社	-128	-17	-	-104	-17	-	24	-0	-
合計	2,341	147	6.3%	2,364	173	7.3%	22	26	1.0%

セグメント別の対前年比を示しています。
エネルギーは売上高がマイナスとなりました。器具、施設・電源システムなどが対前年で減収減益となりマイナス要因でしたが、インダストリー、半導体、食品流通は増収増益となりました。

第1四半期 セグメント別概況①（対前年）

（単位：億円）

	2023年度	2024年度	増減	概況
エネルギー	売上高	726	682	-45 +15*
	営業損益	50	33	-17 +3*

*為替影響

セグメント別の内容をより詳しく説明します。

エネルギー部門では、売上高が45億円のマイナスで682億円、営業損益は17億円のマイナスで33億円となりました。

エネルギーマネジメントでは産業向けや電力向けの変電機器の大口案件が増加し、この部門は増収増益となりましたが、残りの3部門では減収減益となりました。

発電プラントは前年の水力関連の大口案件があったことから減収減益。

施設・電源システムは国内のデータセンター向けは堅調でしたが、シンガポールの子会社が前年の業績が好調だったことから今期は減収減益。

器具分野は国内の機械セットメーカーの需要が回復せず減収減益となりました。

第1四半期 セグメント別概況②（対前年）

（単位：億円）

	2023年度	2024年度	増減	概況
インダストリー	売上高	797	802	5
	営業損益	0	20	20

*為替影響

※2023年度実績は、2024年度のDXソリューションの事業組替の数値を反映しています

インダストリーでは、売上高が5億円プラスの802億円、営業損益が20億円プラスの20億円となりました。

こちらには4部門がありますが、DXソリューションを除く3部門は増収増益でした。

DXソリューションはITソリューションの大口案件が前年に比べて減ったため減収減益となりました。

オートメーションでは、ファクトリーオートメーションの低圧インバータが低調でしたが、プロセスオートメーションの駆動制御システム等の需要増により増収増益。

社会ソリューションでは、原子力関連の大口案件や鉄道車両システムの案件が好調に推移し、増収増益となりました。

設備工事部門も工事案件が増えたため、増収増益となりました。

第1四半期 セグメント別概況③（対前年）

（単位：億円）

		2023年度	2024年度	増減	概況												
半導体	売上高	511	539	28 +26*	産業分野向けパワー半導体はFA関連の需要減少があったものの、 電動車（xEV）向けパワー半導体の需要拡大や為替影響により、 売上高は前年同期を上回りました。営業損益は、パワー半導体の 生産能力増強に係る費用の増加、原材料価格の高騰があった ものの、売上高の増加やとコストダウンの推進、為替影響により、 前年同期を上回りました。 <table><tr><td></td><td>2023年度</td><td>2024年度</td><td>増減</td></tr><tr><td>産業</td><td>252</td><td>264</td><td>12</td></tr><tr><td>電装</td><td>259</td><td>275</td><td>16</td></tr></table>		2023年度	2024年度	増減	産業	252	264	12	電装	259	275	16
		2023年度	2024年度	増減													
	産業	252	264	12													
電装	259	275	16														
営業損益	71	77	6 +8*														
食品流通	売上高	278	307	29	自販機 売上同水準、増益（1%増収） 売上高は前年同期と同水準となりましたが、 原価低減の推進等により、営業損益は前年同期を上回りました。 店舗流通 増収増益（20%増収） 新紙幣発行に伴う改刷対応特需を主因に、 売上高、営業損益ともに前年同期を上回りました。												
	営業損益	32	52	20													
				*為替影響													

*為替影響

半導体は、売上高が28億円増の539億円、営業損益が6億円増の77億円となりました。

産業分野では、ファクトリーオートメーション関連の需要が減少しましたが、為替影響もあり増収、若干の増益。

電装分野は前年比で増収となりましたが、損益は若干のマイナスとなりました。

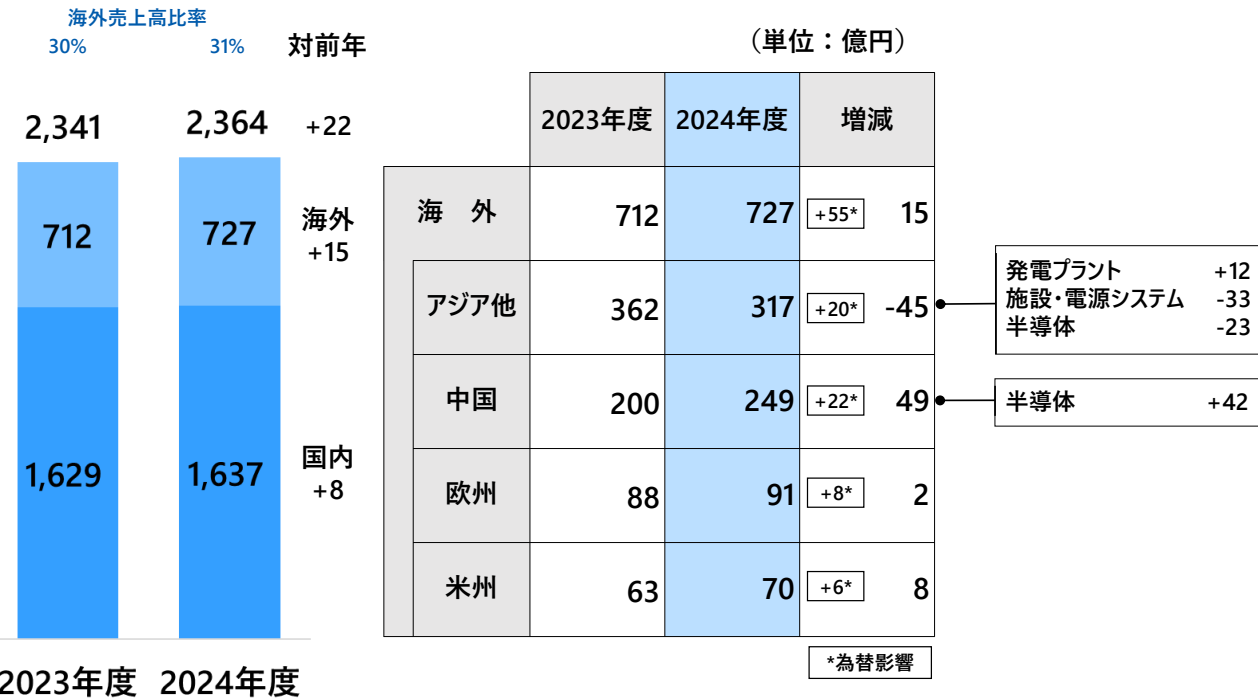
生産能力増強や資本費の増加、原材料価格の高騰により損益面ではマイナス要因があったものの、売上高の増加、コストダウンの推進、為替影響もあり、増収増益となりました。

食品流通分野では自販機、店舗流通ともに増収増益となりました。

自販機は売上が若干増加しましたが、原価低減を進めたことで売上を上回る2桁増益となりました。

店舗流通は新紙幣発行に伴う釣銭機の特需もあり、大幅な増収増益となりました。

第1四半期 国内／海外・地域別売上高（対前年）



※2023年度実績は、2024年度のDXソリューションの事業組替の数値を反映しています

海外と国内の売上高を示しています。海外は前年比15億円増の727億円、国内は8億円増の1,637億円となりました。

為替影響を除くと全体では実質約40億円のマイナスとなりました。

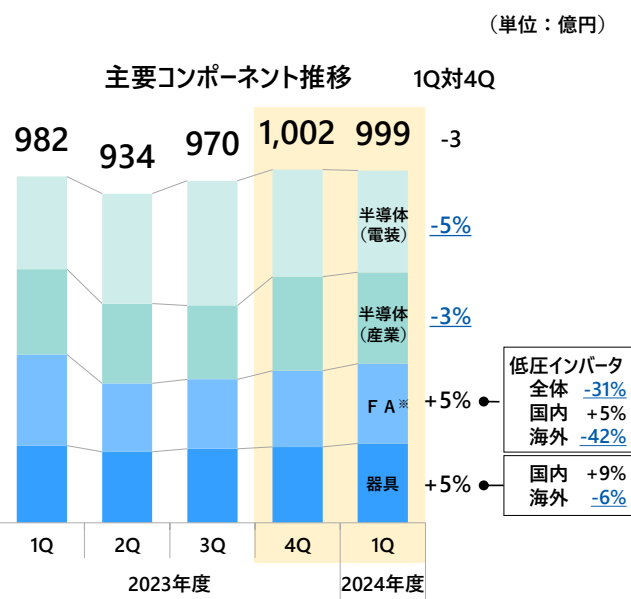
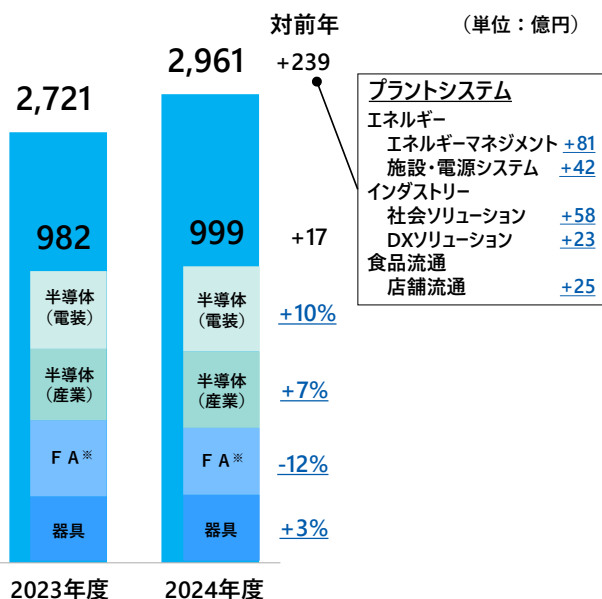
アジアでは45億円のマイナス、施設・電源システムでシンガポールの電機盤の子会社が前年の好調だった反動もあり33億円のマイナス。半導体の電装分野を中心に23億円のマイナスとなっています。

一方、中国は前年が低調だったこともあって49億円増となり、半導体の産業分野、電装分野ともに増加し42億円の増となりました。

欧州・米州は為替影響もあり、若干のプラスとなっています。

第1四半期 受注高・主要コンポーネント推移

対前年 : プラントシステム案件は大幅に増加
対前四半期 : 半導体・低圧インバータは海外需要減により減少



※FAの対象機種は、低圧インバータ、回転機、計測機器に変更しています

主要コンポーネントの第1四半期の受注高比較を示しています。

前年比239億円増の2,961億円で、エネルギー・マネジメント、施設・電源システム、社会ソリューションなどのプラントシステム系が主体となり、対前年で受注が大幅に増加しました。

主要コンポーネントでは17億円増の999億円となりました。半導体の電装は前年比10%増、半導体の産業も7%増となりましたが、ファクトリーオートメーションは12%減、器具分野も低調で前年比3%増にとどまりました。

右側は四半期ベースのトレンドを示しています。一番右の数字は前年度の第4四半期比ですが、トータルでは若干のマイナスとなっています。半導体の電装と産業はそれぞれ5%減、3%減となりましたが、ファクトリーオートメーションと器具は5%増となりました。ただし、ファクトリーオートメーションの中の低圧インバータは31%減となっています。

2. 2024年度 業績予想 (対4/25予想)

【上期】

- ・半導体（電装分野）の一部顧客の需要減に伴い下方修正
- ・食品流通の通貨機器事業の需要増に伴い上方修正
- ・投資有価証券売却益（2Q）を計上

【通期】

- ・上期業績予想の見直しを反映

なお、通期業績予想は、上期の受注動向及び事業環境を踏まえて
為替レートを含めて見直す

上期 連結業績概要（対4/25予想）

直近の動向を踏まえ、半導体・食品流通の業績予想を修正 投資有価証券売却益を織り込み、純損益を上方修正

（単位：億円）

	4/25予想	7/25予想	増減
売上高	4,940	4,940	0
営業損益	355	355	0
営業利益率	7.2%	7.2%	0
経常損益	330	330	0
親会社株主に帰属する 四半期純損益	200	295	95
純利益率	4.0%	6.0%	2.0%

第2四半期の前提為替レート

	US\$	EURO	RMB
4/25予想	¥140.00	¥150.00	¥19.50
7/25予想	変更なし	変更なし	変更なし

為替感応度※ （億円）	-0.2	0.3	0.9
----------------	------	-----	-----

*営業損益ベース（7-9月の3ヶ月影響）

US\$、EUROは1円円安変動影響、RMBは1%円安変動影響

	4/25予想		7/25予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	1,490	87	1,490	87	0	0
インダストリー	1,730	62	1,730	62	0	0
半導体	1,170	169	1,130	149	-40	-20
食品流通	520	55	560	75	40	20
その他	260	16	260	16	0	0
消去または全社	-230	-34	-230	-34	0	0
合計	4,940	355	4,940	355	0	0

© Fuji Electric Co., Ltd. 14

4月の予想と今回予想の比較です。

為替レートは4月公表時から上期、下期ともに変更ありません。売上高、営業損益、営業利益率、経常損益についても変更はありません。ただし、上期に特別利益として政策保有株式の売却を計上したことで、第2四半期の純損益は95億円プラス、純利益率は2ポイント上昇の6%となる見込みです。

セグメント別では、半導体は海外自動車メーカーのEV向け需要減により、売上高が40億円、営業損益が20億円それぞれ減少する見通しです。

一方、食品流通は金銭機器の特需などにより、売上高が40億円、営業損益が20億円それぞれ増加する見込みです。結果として、売上高と営業損益はトータルでは据え置くこととなります。

通期 連結業績概要（対4/25予想）

通期業績予想は、上期業績予想の修正等を反映 為替レートを含めて、上期決算後に見直す

（単位：億円）

	4/25予想	7/25予想	増減
売上高	11,140	11,140	0
営業損益	1,090	1,090	0
営業利益率	9.8%	9.8%	0
経常損益	1,095	1,095	0
親会社株主に帰属する 当期純損益	765	805	40
純利益率	6.9%	7.2%	0.3%

第2～4四半期の前提為替レート

	US\$	EURO	RMB
4/25予想	¥140.00	¥150.00	¥19.50
7/25予想	変更なし	変更なし	変更なし

為替感応度※
（億円）

-0.4	1.0	2.4
------	-----	-----

*営業損益ベース（7-3月の9ヶ月影響）

US\$, EUROは1円円安変動影響、RMBは1%円安変動影響

	4/25予想		7/25予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	3,480	310	3,480	310	0	0
インダストリー	4,140	360	4,140	360	0	0
半導体	2,450	370	2,410	350	-40	-20
食品流通	1,020	92	1,060	112	40	20
その他	550	37	550	37	0	0
消去または全社	-500	-79	-500	-79	0	0
合計	11,140	1,090	11,140	1,090	0	0

© Fuji Electric Co., Ltd. 15

通期予想を示しています。

下期は不透明な状況が続くため、売上高、営業損益、営業利益率、経常損益は変更していません。政策保有株式の売却を当初は下期に計画していましたが、上期に前倒しし、さらに売却量も増やしました。その結果、年間の純損益は40億円増の805億円、純利益率は0.3ポイント上昇の7.2%となる見込みです。

セグメント別では、上期と同様に半導体がマイナス、食品流通がプラスとなる見通しです。

3. 貸借対照表 キャッシュ・フロー計算書

第1四半期末 貸借対照表（対前年度末）

資産の部

	24/3/31	24/6/30	増減
現金及び預金	662	662	-0
売上債権	4,301	3,561	-740
棚卸資産	2,261	2,483	222
その他	406	481	75
流動資産 計	7,631	7,187	-443
有形固定資産	3,115	3,368	254
無形固定資産	255	262	8
投資その他の資産	1,711	1,705	-6
固定資産 計	5,081	5,336	255
繰延資産	0	1	0
資産 合計	12,712	12,524	-188

自己資本比率	47.4%	49.1%	1.7%
ネット有利子負債※1	974	702	-272
ネットD/Eレシオ※2	0.2倍	0.1倍	-0.0倍

（単位：億円）

負債・純資産の部

	24/3/31	24/6/30	増減
買入債務	2,074	1,906	-168
有利子負債	1,629	1,354	-275
その他負債	2,394	2,524	130
負債 合計	6,097	5,784	-313
資本金	476	476	-
資本剰余金	460	460	0
利益剰余金	4,231	4,238	7
自己株式	-74	-74	-0
株主資本	5,093	5,100	7
その他の包括利益累計額	932	1,051	119
非支配株主持分	590	589	-1
純資産 合計	6,615	6,740	125
負債・純資産 合計	12,712	12,524	-188

※1 ネット有利子負債：有利子負債 - 現金及び現金同等物

※2 ネットD/Eレシオ：ネット有利子負債 ÷ 自己資本

3月末と6月末の貸借対照表の比較です。

棚卸資産が222億円増加、半導体を中心に有形固定資産が254億円増加しました。一方、3月末に積み上がった売上債権について6月までに回収を進め、740億円債権を減らしました。資産合計は188億円減の1兆2,524億円となりました。

負債面では、前受け金の増があったものの有利子負債を275億円減などによりトータルでは減らしています。

利益剰余金は7億円の増ですが、これは配当で107億円支払った後の数字となっています。

結果、自己資本比率は1.7ポイント上昇の49.1%、ネット有利子負債が272億円減の702億円、D/Eレシオは0.1倍となりました。

第1四半期 キャッシュ・フロー計算書（対前年）

（単位：億円）

	2023年度	2024年度
I 営業活動によるキャッシュフロー	120	662
II 投資活動によるキャッシュフロー	-53	-270
I + II フリー・キャッシュ・フロー（FCF）	67	392
III 財務活動によるキャッシュフロー	-449	-432
IV 現金及び現金同等物の期末残高	481	653

2024年度第1四半期では、営業活動によるキャッシュフローとして662億円、これは内部留保で約250億円のプラス、債権回収の増や前受金の増ということが主体で、棚卸資産や買掛金によるマイナスをカバーして運転資金の好転ということで、410億円程度ありました。
一方投資活動では270億円の減ということで、主に半導体の投資により悪化しております。

トータルとしてフリーキャッシュフローは392億円のプラスで、対前年では、運転資金が好転を主因とし325億円改善しています。

4. 補足資料

器具受注高		1Q（対前年度4Q）	1Q（対前年）
	全体	+5%	+3%
	国内	+9%	-1%
	海外	-6%	+13%

低圧インバータ受注高※			
	全体	-31%	-18%
	国内	+5%	-15%
	海外	-42%	-20%

半導体受注高			
	全体	-4%	+8%
	産業	-3%	+7%
	電装	-5%	+10%

自販機受注高			
	全体	+12%	+1%

※2023年度実績は、2024年度のDXソリューションの事業組替を反映しています

補足資料：上期 連結業績概要（対前年）

（単位：億円）

	2023年度 実績	2024年度 7/25予想	増減
売上高	4,917	4,940	23
営業損益	350	355	5
営業利益率	7.1%	7.2%	0.1%
経常損益	346	330	-16
親会社株主に帰属する 四半期純損益	243	295	52
純利益率	5.0%	6.0%	1.0%

	2023年度 実績		2024年度 7/25予想		増減	
	売上高	営業損益	売上高	営業損益	売上高	営業損益
エネルギー	1,463	87	1,490	87	27	0
インダストリー	1,797	52	1,730	62	-67	10
半導体	1,085	168	1,130	149	45	-19
食品流通	532	54	560	75	28	21
その他	313	21	260	16	-53	-5
消去または全社	-272	-31	-230	-34	42	-3
合計	4,917	350	4,940	355	23	5

© Fuji Electric Co., Ltd. 21

今後の見通しですが、米国大統領選挙の候補者による政策の違いを受け、米国のみならず中国を中心に世界情勢が不透明になっています。また、FRBが9月に利下げ、日銀が利上げを示唆したことから、金利動向や為替相場も不確実な状況にあります。

本日時点においても株価も含め大きく変動していることもあり、為替レートはドル140円、ユーロ150円人民元19.5円と当初予想の前提のまま据え置いています。

10月の計画見直し時には為替前提の変更とともに、各事業部門の状況を踏まえて業績予想を開示する予定です。

毎回申し上げておりますが、為替影響と経費改善については、上期・通期ともに現在の状況が維持されれば、利益を押し上げる見込みです。

私からの説明は以上です。

1. 本資料は監査法人によるレビュー手続の対象外であり、本説明会の時点において、監査法人によるレビュー手続は終了していません。
2. 本資料及び本説明会に含まれる予想値及び将来の見通しに関する記述・言明は、弊社が現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいております。その判断や仮定に内在する不確実性及び事業運営や内外の状況変化により、実際に生じる結果が予測内容とは実質的に異なる可能性があり、弊社は、将来予測に関するいかなる内容についても、その確実性を保証するものではありません。
3. 本資料は、情報の提供を目的とするものであり、弊社の株式の売買を勧誘するものではありません。
4. 目的を問わず、本資料を無断で引用または複製することを禁じます。